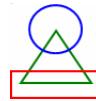


# 研究所通信



2005年ふゆ号

藤田佳代舞踊研究所

神戸市東灘区住吉本町 1-4-4

TEL・FAX 078-822-2066

E-メール [fkmdu@muf.biglobe.ne.jp](mailto:fkmdu@muf.biglobe.ne.jp)

<http://www2s.biglobe.ne.jp/~fkmdu/>

ロゴマ - クを作りました

は天 は大地 は天と地をつなぐもの即ちわたしたちの踊です。

私たちの踊がこうありたいと願っています。踊を作ったり 踊を踊ったりする側も踊を見る側も 踊によって 困ったとき 悲しいとき 寂しいとき 苦しいときどんなときでも 何らかの力を得ることが出来るといいのにおもっています。

しっかり二本足で立ち すっきり背筋を伸ばし まなざしを天に向けて。

バ - レッスンのとき

空を見て 海を見て 山を見て そして自分を

幼稚クラスのときからずっと空と海と山と自分を教室の中で心で見る訓練をしています。

空も海も山もとても大きなものです。それらと自分は同じものだと教えています。

そして空も海も山も自分も自分も買うことも売ることもできないということも。

藤田佳代

## 発表会があわりました

第28回藤田佳代舞踊研究所発表会 2005年10月15日 神戸文化大ホール

「きみはどこに行くの」 「伝言 海のかみさまから山のかみさまへ」

出演者・保護者からのことば

私は発表会にでてよかったです。

今年の発表会はすごかったですけど、皆さんがあわせて頑張っているからみんなにすばらしい発表会になるんだな…と思いました。

来年もすばらしい発表会になったらいいな、と思いました。

大原志穂(桂木ジュニア)

踊り始めたころは、楽しくてしかたがなかった。でも今は、「一人でも多くの人に私の踊りを見てもらい、やさしい気持ちになって帰ってほしい。」と考えられるようになりました。私はこれからも、ずっと踊り続けます。

平岡愛理(本部ジュニア)

舞台を終えて歩君は、神様たちはみんな何処に行ってしまったのでしょうか？あの夜に消えてしまったのでしょうか？

エネルギーは姿を変え続け消えることはありません。

自分達の今までを凝縮した時を寄せ合って創ったアノ空間にいたすべての心にそれぞれ違った色のエネルギーを贈り込んだと私は思います。

谷舗亜佑美(西山ジュニア)

娘にとって初めての舞台でしたが、とても楽しく踊ることができたと喜んでいます。

日本を離れますが、先生方のこと、優しいお友達のことをいつまでも忘れずに、これまで学んだことを、自分の中でさらに育てていってほしいと思います。

トゥルーヴァイン直子(トゥルーヴァイン未来 本部子ども1)

命をたいせつにという願いをこめた作品を、子供たちが一生懸命踊っている姿がかわいらしく感動しました。

梁河久美子(梁河茜 本部研究科)

<発表会の魅力>

長女が3歳の時から、秋の研究所発表会は我が家の中行事の一つになり、今回で16回を数えました。

お化粧をし、衣装をまとい、何気ない小道具で華麗なダンサーへと変身した生徒たちが踊ります。それらの小道具ではぶつ切れだったストーリーが本番でつながり、なるほど、と合点がいきます。大ホールでの迫力。布やベニヤ板から素晴らしい仕掛け、照明が輝き音楽が響き渡ります。毎年観ているとそれぞれの、特に子ども達の上達ぶりに驚かされます。そして、研究科や先生方の見事な踊りも堪能できます。舞台上に登り照明を浴びる快感も病みつきになるかもしれません、私はまだ当分の間は客席で夢の世界に浸っていたいと今回も思った発表会なのでした。

中村香苗(本部バレエ体操科 中村牧穂 本部研究科 常吉ジュニア)

第28回藤田佳代舞踊研究所の一大行事である発表会を無事大盛況に終える事が出来、先生方本当に疲れ様でした。

老いも(?)若きも皆お稽古の成果を楽しめました。

我が家の蓮美は、リズムクラスの三人の仲間の初デビューもあり、とても力が入っていたようです。又、人の何十倍も踊る楽しさを満喫していました。

安田花仙(安田蓮美 本部バレエ体操科 リズムクラス)

幕が開く。照明(あかり)が入る。音楽が流れ、妖精たちが踊る。

笑顔、拍手、沢山の色。

私たちの衣装を着て下さってありがとうございます。

そして、来年もどうぞよろしく。

藤田啓子(衣装担当代表 本部バレエ体操科)

# 活動報告

兵庫県立芸術文化センターオープニングシリーズ

## バレエ・ガラ「よみがえるニジンスキー版 春の祭典」2005年11月12日(土)13日(日)

兵庫県立芸術文化センター

「春の祭典」に出演して

2005年11月12,13日に兵庫県立芸術文化センターオープニングシリーズの一つとして、『よみがえるニジンスキー版「春の祭典」』が上演されました。研究所からは、金沢景子、菊本千永、向井華奈子、鎌倉亜矢子、灰谷留理子、かじのり子が出演致しました。

舞台リハーサルのためレッスン時間の変更やお休みをさせていただき申し訳ありませんでした。出演させていただき誠にありがとうございました。

「春の祭典」はストラヴィンスキー作曲、ニジンスキー振付、1913年5月にバレエ・リュスによりパリで初演されました。2幕からなる作品です。乙女が生贊になるという内容、全ての動きを内股で踊ること、複雑な音楽などから、その当時の観客は驚き、怒り、ののしり、動搖したと言われています。ニジンスキーの「春の祭典」はゲネプロも含めてたった9回しか上演されなかったそうです。

このすっかり忘れかけられていた作品を1987年、アメリカのジョフリー・バレエ団で復刻上演させたのがミリセント・ホドソン先生です。

今回の公演は、このミリセント・ホドソン先生に直接振り付けをしていただきました。

ビデオのない時代の作品を復刻させる難しさは想像を絶します。資料はあちこちに点在し、完璧なものもなく、当時ニジンスキーの振り付けで踊った「生き証人」たちの数も年々減っていきます。ホドソン先生が作品に興味を持ってから復刻までの道のりはなんと17年もかかりました。

リハーサルは始終、ホドソン先生のパワーに圧倒されました。4週間ほとんど休みなしで、一日4,5時間。先生が疲れた様子を見せたことは一度もありませんでした。公演の直前まで、だめ出しの連続で一日目の上演が終わるまではどうなるかと心配でしたが、本番はダンサーのパワーが爆発し、大成功だった...と思います。上演後、ホドソン先生が私たちにおしゃいました、「あなた方を誇りに思う」と。

「春の祭典」はホドソン先生の力によって現代によみがえりました。この復刻の現場に参加出来たことを、私もまた誇りに思います。

かじのり子

## 今後の予定

Coming soon !!

## 寺井美津子モダンダンスリサイタル

2005年12月23日(金 祝)PM6:00

新神戸オリエンタル劇場

「千羽鶴」(振付 藤田佳代) 「ポレポレ」 「WITH」 「花は根に」(振付 寺井美津子)

12月23日(金 祝)PM6:00より新神戸オリエンタル劇場において 藤田佳代舞踊研究所モダンダンス公演 寺井美津子モダンダンスリサイタルを開催します。

この催し物は、震災直後の1995年8月より研究所所属のソリストが順次開いているリサイタル公演です。ソリスト各人の個性が反映されたオリジナルなモダンダンスを創り上げるべく、研究所をあげて取り組んできました。

9回目、私自身2回目となる今回は、「花は根に」「ポレポレ」「WITH」(振付 寺井美津子)と「千羽鶴」(振付 藤田佳代)を上演します。

「花は根に」は、戦争、公害などの人災、地震、津波などの天災などで命がみんな無くなってしまったかのようにみえる大地にでも咲く花に地球の大きさ、豊かさを感じ、創った作品です。昨年8月のスタジオ公演から取り組み、今年3月の創作実験劇場を経て、今回完成させようと意気込んでいます。

「千羽鶴」は広島のサダコ像がかかけている折り鶴を主題としています。「ポレポレ」はスワヒリ語でゆっくりを意味する“ポレポレ”という言葉に着想を得た作品で、「WITH」は、私と私に関わるもの(舞台にゴムを張ります)を描きたいと創りました。

6年ぶりのリサイタル、佳代先生はじめ研究所の仲間の力強い助力を得て、少しでもいい舞台にしようと全力で取り組んでいます。

皆さんどうぞお出かけ下さい。お待ちしています。

寺井美津子

## ハスミのダンス in 豊岡

2006年1月8日(日)PM3:00

豊岡市民プラザ

「天使が」 「ハスミ doll」 「白い小さな花が」 「IMUSAH 君 風にのって」 「柿ひとつ」(振付 藤田佳代)

今年1月に行った「ハスミのダンスふたたび」をご覧になった、豊岡市民プラザの勝亦真也さんより依頼を受けて、豊岡市で「ハスミのダンス」全プログラムを公演できることになりました。豊岡市は昨年の台風による水害で多くの被害を受け、公共のホールも一時は全(使えない)なったと聞きました。さまざまな困難を経験された市民の皆さんに、招聘していただけることを本当に嬉しい思います。当日はバスを出してもらっての小旅行。それも楽しみです。コウナトリも見たいのですが、残念ながらそんな時間はなさそうです。

## 骨髄バンク ふれ愛コンサート

2006年1月22日

アルカイックホール 入場料500円(カンパ)

「松がおどる」(振付 向井華奈子)

昔、深江(神戸市東灘区)にねじれた松があった。その松を祀ると災害がおさまった、という。その松は“踊り松”と呼ばれた。

ジュニア舞踊団が踊ります。どうぞお越しください。

向井華奈子(ジュニア舞踊団代表)

世界中の多くの人々が大きな病にかかり、毎日苦しんでいます。私も大好きなバレエを通して、少しでも骨髄バンクに理解と協力をしたいと思います。た(さん)の人々が骨髄バンクに協力するよう希望を持ちたいです!

姜未喜(本部ジュニア 2005年よりジュニア舞踊団団員)

ジュニア舞踊団・・・2002年結成。ピッコロフェスティバルにて作品を発表。

2002年 「雲のゆくえ」 2003年 「天上の水」 2005年 「松がおどる」

現在、メンバー11人。メンバーを募集しています。オーディションあり。

## 編集後記

ひとつの舞台が終わるたびに、なんらかの形でご報告できたらいいな、と思っていました。季刊となるか、年刊となるか...。月刊はまさかね。感想等おきかせいただければ嬉しいです。

責任編集 菊本千永